



飢餓が原因で、1分間に17人が亡くなっています。12人は子どもです。



Japan International Food for the Hungry

大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL 072-920-2225 FAX 072-920-2155
東 京 〒164-0012 中野区本町 5-10-5
TEL 03-3383-7611 FAX 03-3383-7510
愛 知 〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 2F
TEL 052-731-8111 FAX 052-731-8114
広 島 〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201号
TEL 082-831-1214 FAX 082-877-3961
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米 2-11-20
TEL 098-868-6347 FAX 098-868-6360

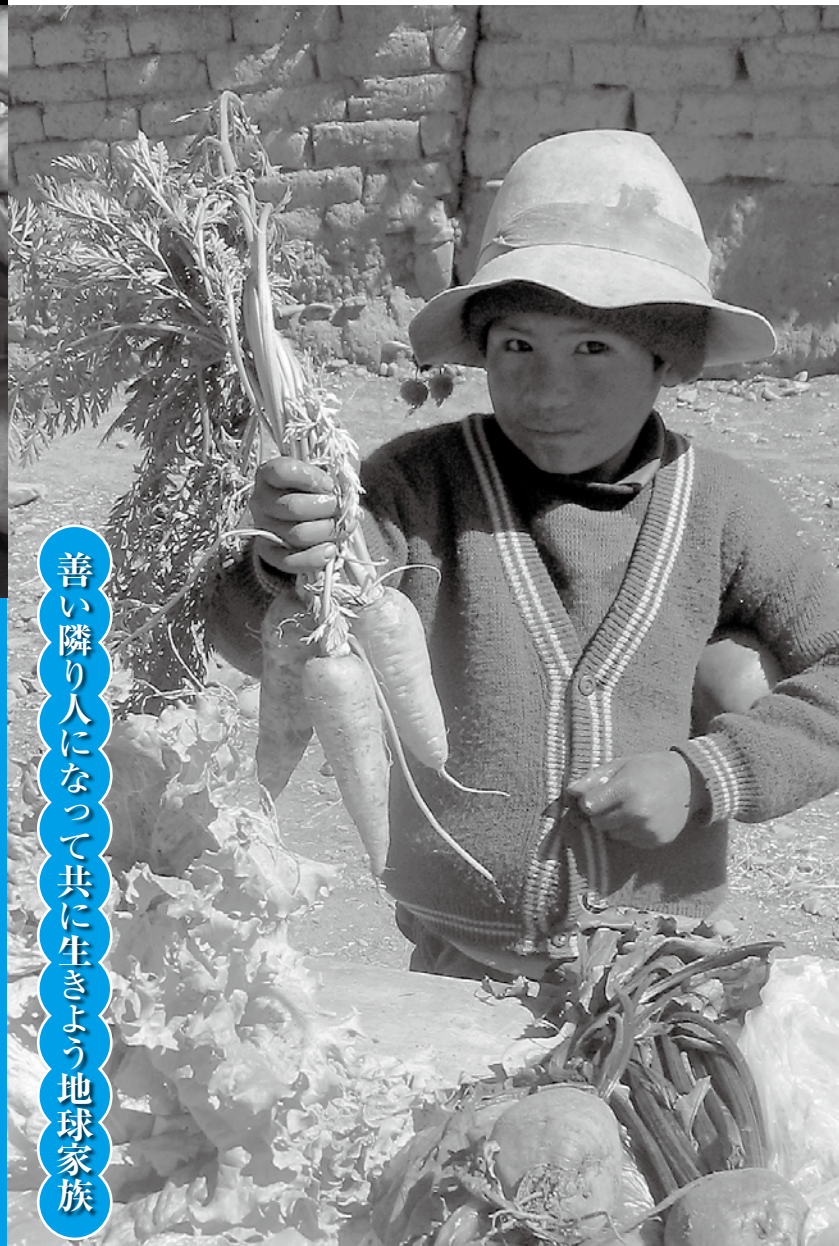
- 発 行 者 堀内 顕
- 発 行 所 日本国際飢餓対策機構
- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
※ 支援金は随時受け付けております。

<http://www.jifh.org/>

2007.7-2008.6

年 次 報 告

日本国際飢餓対策機構



善い隣り人になって共に生きよう地球家族



■ 海外活動	
私たちが目指すもの	
海外プロジェクト担当総主事 柳沢美登里	4
自立開発への協力	
アジア	7
南米／アフリカ	10
緊急援助から復興支援へ	12
世界里親会 未来を担う子どもたちのために	14
海外駐在スタッフ派遣 良き励まし手として	16
オリエンテーション・トレーニング、海外ワークキャンプ	18
■ 国内活動	
10月16日は何の日？～広がる「世界食料デー」の輪～	19
講演会、巡回活動	20
生活の中での国際協力	21
視聴覚教材（ビデオ・DVD・パネル・国際児童画・書籍他）	22
■ 支援活動一覧	24
■ 決算報告	26
■ 監査・支援者数	27
■ 新部門	28
■ 年間活動記録	29
■ 日本国際飢餓対策機構とは	30

ごあいさつ

今年度(2007年7月～2008年6月末)も、飢餓と貧困に苦しむ人々への皆様の温かい愛の寄付金を、私ども日本国際飢餓対策機構にお預けくださりありがとうございました。また皆様の愛の働きの手足として私どもをお用いくださいましたこと、心より感謝申し上げます。

現在の世界情勢は深刻です。FAO(国連食糧農業機関)による最新の報告(2008年9月18日)では、2007年時点で飢餓人口は9億2300万人とあり、さらに2008年末までには10億人を超えるであろうとの予測です。日毎の糧を得るためにどれほど多くの人々が苦しんでいるのでしょうか！

本来ならば人の口に入るべき食糧が、エネルギー用に転用され、またそれをビッグビジネスとして一儲けしようとする様々な投資家の思惑・暗躍が、驚異的な食糧価格の高騰を引き起こしています。工業先進国の便利さ、快適さを維持するためのエネルギー事情の画期的といわれる発想転換や、拝金主義が、実に飢餓と貧困に苦しむ人々をさらに窮地に陥れているのです。

このような世界情勢の中で、時として私たちは自分の必要に窮々として「他者と共に生きる」ということを忘れてはいないだろうかと考えさせられます。「善き隣人」となって、持てるものを分かち合い、飢餓や貧困に苦しむ人々と共に生きる社会を築き、世界の飢餓問題の解決に向けて更に邁進していくという私どもの使命をしっかりとわきまえ、皆様と共に行動していくことを再確認させていただいています。

ここに心よりの感謝を持って、この1年の活動を報告させていただきます。皆様の温かいお支えとご指導、また愛のご労があのものです。飢餓と貧困との闘いは、これからさらに緊急性を帯びてまいります。新年度も皆様と共に熟考し、共に勇気付けられ、共に行動してまいります。

皆様のご多幸と平安を祈りつつ。

日本国際飢餓対策機構 理事長 堀内 顕

私たちが目指すもの

共に生きる社会を実現する
地域社会の「巣立ち」を応援して

日本国際飢餓対策機構が目指すもの

- 人々が生活の基本的必要に満たされ、自立する
- 人々が自分の可能性を信じ、希望をもって生活し、
隣人を愛する人になる
- 「分かち合い、助け合う」共に生きる社会を実現する

海外プロジェクト担当総主事 柳沢美登里

「人」の内に地域と未来を変えていく可能性がある

日本国際飢餓対策機構は、この20数年間、支援者の皆様と共に飢餓・貧困と闘う開発途上国の方々の応援を続けてきました。

私たちは、国籍、人種、信条を超えて、世界の底辺で飢餓・貧困に喘いでいる人たちの命が、かけがえのないものであることを確信して働き続けてきました。世界各地で、収穫の向上、畜産業や菜園運営を通じて収入向上に取り組むと共に、病気の予防法を伝え、衛生状態の改善を図ることで、感染症で命を落とす大人や子どもの人数を大きく減らすことに貢献しました。

しかし、生きる上で最低必要な食料が確保され、栄養状態・衛生状態が改善し、病気が減少したとしても、私たちはそれで飢餓の問題が解決したとは考えません。

私たちの働きを中心に位置づけられてきたのは、人です。人々の内に地域と未来を変えていく可能性があることを、何よりも信じてきました。



モザンビーク・マロメウ地区にて

飢餓・貧困に喘ぐ人々は、「この現状は私にはどうすることもできない」という運命論を受け入れてしまうことがよくあります。しかし、「あなたたちの内には可能性が秘められている」という希望は、人々のさまざまな意欲となっていきました。

私たちが「人との関係作り」を大切にし、共にその働きを担っていく過程で、地域の人々にとって最初は外部者との協力で始められた働きが、一人一人の心と考えに根ざすものとなり、人々の内側から、自分たち、そして地域を作り変える動きとなって続いていくようになりました。

そして、貧しい方々も「分かち合う、助け合う」という、「人」としての本来の姿を生きていくことができるのだということを前提として、私たちは7～10年くらいを目安にした関わりを続けていきます。やがて、人と社会がこの本来の姿に回復されたときを、私たちは、共に生きる社会への「巣立ち」の完成であると位置づけます。

日本に生きる私たちが、飢餓・貧困と闘う方々に関わっていくとは、どういうことでしょうか。世界の方々への分かち合いやこの方々の汗と涙、そして生活の中での喜びの一端を知ることを通して、この地球家族の「巣立ち」を応援するということです。その一方で、物質主義の生活の中、「もう少し、モノがあれば…」と常に考えてしまう私たちが、「人」の内にこそ地域と未来を変えていく可能性があると感じていくことへのチャレンジであるのです。

(柳沢美登里)



フィリピン・セントキテリアにて

自立開発への協力

アジア
ASIA

世界の貧困や飢餓の中にある人々と「共に生きる」世界を目指して、この1年も、世界各国で活動させていただきました。その一部をご報告します。

バングラデシュ・グループ活動プログラム

(ゴノクトリ地区、ドゥム二地区)



職業訓練を受ける女性たち

社会的差別と貧困の中にある女性 974 名が、職業訓練や貯蓄活動などのグループ活動に参加しました。活動全般を通して、女性たち自身の価値観の変革だけでなく、地域や家庭の中で、「女性の尊厳」が回復されつつある姿を見ることができるようになりました。

バングラデシュ・シシュ小児専門病院と小児治療センターへの支援

(ダッカ)



保健衛生トレーニングを受けるお母さんたち
(小児治療センター)

シシュ小児専門病院と小児治療センターへの支援が始まってから、20 年が経ちました。現在では、バングラデシュの 5 歳未満の死亡率は当初の 3 分の 1 にまで減り、貧困による極度の栄養失調で病院に受診に来る子どもの数も減少したことから、この 2008 年 6 月末をもって、その働きを病院に委ねることとなりました。

カンボジア・地域開発プログラム

(オドー・メンチェイ州)



農業・保健衛生教育・貯蓄を3本柱として、村人の主体性に焦点を当てたこのプログラムは、2007年9月より始められています。2008年には、村のリーダーや村人との関係作り、また、村人の中から活動の中心を担う「村落開発委員」の選出が行われ、この委員と村のリーダーを対象とした指導者訓練会が開かれました。

中国・地域開発プログラム

(雲南省)



ディーチン・チベット族自治州ヤンラー地区の山村に散在する6つの小学校の教育環境の改善や、地域の自立開発を行っています。マオディン小学校では、教師によって運営される小規模売店が開設され、利潤が生徒たちの奨学金として使われる予定です。

中国・竹工芸指導者育成プログラム

(雲南省)



2008年4月に、2週間かけて訓練会が行われました。昆明市での開催も3年目となり、訓練生は高度な花籠の作成に挑戦。作品を「完成品」に仕上げるために、染色や漆塗りにも取り組みました。苦勞し仕上げた作品を前に、訓練生の中に誇りと自信を見ることができました。

インド・アートワークショップ

(デリー)



2007年のテーマは「貧富の格差」。芸術家15名が集まり、テーマに沿って32作品が完成しました。学生や画家、教員、音楽家など様々な背景を持つ芸術家たちによる作品は、インド国内での展示会やイベント、学校などで年間を通して用いられ、見る人の心に語り続けています。

インド・アシシ障がい児支援スクール

(デリー)

2007年度は17名、2008年度は24名の生徒が学んでいます。作業療法や言語療法なども含めた個々の生徒に合ったカリキュラムの中で、生徒たちは楽しんで学校に通っています。年長の生徒を対象とした職業訓練プログラム、保護者グループの活動が始まっています。



インド・女の赤ちゃんを守れキャンペーン

(デリー)



5人に1人の女児が堕胎されている北西インドにおいて、2008年1月から女児の中絶問題に取り組んでいます。大学やNGO、病院などとの協力関係が広がってきています。また、女児の堕胎について描かれた絵画展が数ヶ所で開かれ、音楽家たちにより啓発のための歌が作られました。

作品づくりに取り組む参加者

歌を通して啓発する音楽家たち

納得するまで話し合うリーダーたち

机も椅子も新しくなりました。(チンレン小学校)

フィリピン・子どもと地域開発プログラム

(ミンドロ島)

酒井保・慶子スタッフ



マニヤン族の村とその周辺の最貧困地域で、子どもたちと地域社会を支援します。今年度は、プログラム開始に向けての地域初期調査や事務所設置などが行われました。2008年2月からは、酒井保・慶子スタッフが派遣されました。

南米
South America

ボリビア・寄宿学校支援

(チャヤ・ラクヨ地区)

学校給食の様子



標高 4000 メートルのラクヨ地区に住む子どもたちが、その自然の厳しさや、貧困を乗り越えて、将来への夢を持って学校での勉強を続ける事ができるように、学校給食、学校寮運営、生徒や親たちを対象とした農牧教育訓練を支援しています。

アフリカ
AFRICA

ルワンダ・トラウマに苦しむ方々への支援

(カモニ郡)

訪問活動中の竹内緑スタッフ



多くの人々が、1994 年の大虐殺やエイズなどで親族を亡くしました。肉親の死による人々の心的外傷はとても深く、癒されていくには時間がかかります。本格的な支援活動を前に、心的外傷に苦しむ人々を対象とした調査が行われました。

＊現地 NGO「リーチ」を通しての「平和構築プログラム」は 2008 年 7 月スタート

エチオピア・女性の能力開発プログラム

(アジスアベバ)

講習会に参加する女性たち



2 つの地区において、女性組合を発足し、プログラムが本格的に開始しました。これらの組合から、女性たちは資金を借り、惣菜や雑貨売りなどの商売を始めていきます。講習会をはじめ、他の女性組合への訪問も行われ、女性たちは商売を始める期待に胸を膨らませています。

ウガンダ・拉致された子どもたち支援

(キトゥグム)

裁縫技術を学ぶ少女たち

反政府集団 L R A に拉致され、傷つきながらも逃れてきた少女たちにとって、心的外傷などの様々な問題を抱えたまま、地域社会に戻っていくのは簡単なことではありません。少女たちが、希望を持ってこれらを歩んでいく事が出来るように、カウンセリング、識字教育、職業訓練、育児の学びなどの支援が行われています。



ウガンダ・職業訓練センター建設支援

(ムコノ)

完成した職業訓練センター



ムコノ地区では、経済的な事情などから、約 3 分の 2 の子どもたちが中学校へ進学できずにいます。進学がかなわなかった生徒や中退した少年少女を対象とした職業訓練センターを開講し、100 名の生徒が裁縫、大工、農業などを学んでいます。当機構は、特にそのセンター建設を支援しました。

ペルー南部地震・被災者緊急支援

2007年8月15日、ペルー南部沖をマグニチュード8.0の大地震が襲い、8万人の方々が被災しました。リマ南部のイカ地域では住宅街やビジネス街の80%が破壊され、国際飢餓対策機構ペルーは、被災者の方々に食料品やテントの配給を行いました。

日本国際飢餓対策機構は特に、飲料水用タンクや再建用のスコップやつるはし、手押し車の提供、被害を受けた家族への保健衛生トレーニングの実施を支援しました。



飲料水タンクを届ける勢井スタッフ④

バングラデシュ サイクロン「シドル」被災者緊急支援

2007年11月15日、超大型サイクロン「シドル」がバングラデシュ南部から北上、被災者680万人という甚大な被害をもたらしました。国際飢餓対策機構バングラデシュは、同国南部のボルグナ県とポトゥカリ県において緊急支援パック（食料品と毛布）、続いて石鹸、防寒ジャケットやその他衣類、蚊帳やランタンの配



ラカインという少数民族の方々にも緊急支援パックを届ける

布を実施。12月中旬には復興支援に移行し、「フード・フォー・ワーク（地域住民が復興活動に参加し、その代わりに食料を受け取る支援方法）」によって、人々が道路整備を行うことを支援し、養殖用の稚魚の配布も行いました。

ミャンマー サイクロン「ナルギス」被災者緊急支援

2008年5月2日、ミャンマー南部のデルタ地帯を襲ったサイクロン「ナルギス」。当機構は、海外パートナー団体VOCF（ビジョン・オブ・コミュニティ・フェローシップ）を通して、南部12地域で、緊急食料パック、女性用品キット、家族用キット、トラクターや漁業用の網、船の提供を行いました。



支援物資の配布準備をする人々

中国四川省大地震・被災者緊急支援

2008年5月12日、四川省を襲った大地震によって40万人以上が死傷、多くの小学校が倒壊し、子どもたちの心と身体に大きな傷を残しました。当機構は、6月4日から11日まで、清家弘久・国際協力隊総主事と中玉澈スタッフを現地に派遣し、国際飢餓対策機構・韓国や現地NGO・ヘイファアと協力して、食料品や蚊帳、絵本、学用品、および日本の中京医薬品から寄贈された医療品を被災者の方々にお渡ししました。



支援物資を手渡す申スタッフ④

被災者の方々にお渡ししました。

また8月4日から一週間、清家総主事が現地を再訪問し、ヘイファアによる幼稚園再建活動を支援しました。

新潟中越沖地震・被災者緊急支援

2007年7月16日、新潟県中越沖で発生した地震による被災地・柏崎市に、ボランティア5名、スタッフ4名を派遣。家屋内の片づけや、崩れたブロック塀や屋根瓦の撤去、屋根の養生、被災住宅の修復や補強工事などを行いました。

2月9日～10日には柏崎市と長岡市で、当機構・親善大使の森祐理さんによる「希望の翼コンサート」が地元主催で開催されました。このコンサート後も、地元の方々同士による励ましと協力の輪が続いています。



瓦礫の撤去作業の様子



「希望の翼コンサート」の様子



親善大使
森祐理さん

世界里親会

未来を担う子どもたちのために

世界里親会は、貧困のために学校へ行くことのできない子どもたちへの教育支援と共に、健康や衛生面、さらに家族の自立、地域の共生のために活動しました。その結果、3ヶ国の4地域において支援を完了することができました。現在は、世界5ヶ国で活動を進めています。

子どもたちと家族と地域の巣立ち

～里親の皆様の温かいご支援に感謝をいたします！～

モザンビーク

活動地域：マロメウ地区ヴィラ 2001年1月～2007年末

現在、同地区には7つの小学校があり、4,000人以上の生徒が通学しています。各校には良く訓練された教師がおり、教育の価値を知った両親たちが男女を問わず学校へ通わせています。職業訓練のための学校も開かれました。

ペルー

活動地域：リマ(ビジャ・ドス・デ・エネーロ) 2004年5月～2007年末
プカルパ(ロス・プロセス) 2000年11月～2007年末

子どもの心身共なる成長を支えるのは、親たちです。両地域共に、特に親の意識改革に重点を置いて活動が行われました。現在では、親は進んで子どもを学校へ送り出し、健康・衛生面での改善が図られ、家庭内暴力も減少しました。



フィリピン

活動地域：セントキテリア(ビッグバナナ)地区 1998年11月～2008年5月末

田舎からマニラ市内へ、仕事を求めて出てきた人々が形成した地区において、子どもたちへの教育支援に加え、親や地域リーダーへの訓練を行いました。医療面、精神面、経済面から、子どもの成長を支援できる地域作りを行うことができました。

引き続き応援してください！

子どもたちが健やかに成長するために、家族や地域も学び、共に助け合う地域社会へと変革されていくことを目指して、活動が続けられています。



ウガンダ

活動地域：ナマスンビ、キョガ、ミソンバ、ブンタバ

(※ブンタバは2008年8月末に支援完了)

農耕や牧畜を営みながら農村部に生きる子どもたちを支援しています。健康・衛生面での支援、教員を含む指導者の養成も並行して行われています。

ボリビア

活動地域：チャヤ・ラクヨ地区

アンデス山脈の高地にあるラクヨ学校および、その学校寮で生活する子どもたちを支援しています。



バングラデシュ

活動地域：ダッカ、マイメンシン(リシバラ、ハリジャンバリ)

首都ダッカの貧困地区および北部農村地帯で、社会差別と貧困のために基礎教育を受けることのできない子どもたちを支援しています。



フィリピン

活動地域：パリバラン

仕事を求めて地方からマニラ市内に出てきた人々で形成されたスラム地区です。小学校就学前児童を対象に活動が始められ、今では10歳前後の子どもを中心に、教育だけでなく、社会性を養う訓練や情緒面での成長を願う支援が行われています。

カンボジア

活動地域：オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡(4地区:スラッ・チューク・トゥノップ・ルー、エカピアップ・サンタピアップ、テクチョップ、トゥール・トゥベン)

アンロン・ベン郡は、元クメール・ルージュ兵士とその家族、外部からの開拓民が混在する新しいコミュニティです。2007年7月の活動開始以来、400人以上の子どもたちが初等教育を受けています。



良き励まし手として

飢餓・貧困の解決のために、外部からどんなに多くの資材や知識、専門家を送り込んだとしても、最終的にその地で解決に取り組むのは、地域の方々です。人々が自立への努力を続けていくために、地域で共に生きる「励まし手」として当機構の海外スタッフは派遣されています。今年も多くの方々に応援いただいて、16名のスタッフが各国で働くことができました。

◆ 帰国スタッフ

★ 河合朝子（ボリビア／農業アドバイザーおよび世界里親会スタッフ）



2004年11月～2007年11月帰国

ボリビアのアンデス地域チャヤにおいて、学校寮の子どもたちや地域の方々と共に農牧教育プログラムに携わりました。

★ 勢井美世（ペルー／世界里親会コミュニティー・プロモーター）



2001年9月～2008年3月帰国

ペルーのアマゾン川流域プカルパ市で、世界里親会の働きを通して、子どもたちや地域の方々と共に活動しました。2007年末、プカルパでの世界里親会・活動終了に最後まで携わりました。

★ 星野公寛・尚子（中国雲南省／農村地域開発プロモーター）



2005年2月～2007年12月帰国

雲南省北部の最貧地域において、農村地域での開発支援に携わりました。

◇ 新着任スタッフ

★ 斉藤 満（カンボジア／2008年2月出発）

世界里親会アドバイザーなど



★ 酒井保・慶子（フィリピン／2008年3月出発）

ミンドロ島プロジェクト・ディレクター



★ 青山亜紀子（ウガンダ／2008年7月出発）

人づくりプログラムアドバイザー



どのように現地の人々を支援するのか

エチオピア駐在スタッフ 高橋ゆかり

エチオピア国内には、外国からの何億円もの大きなお金が動くプロジェクトが存在します。一方、金額的には小さくとも、エチオピア人が志をもって働く団体もあります。

月々数万円でやりくりしている、このような小さな団体に外国から大きな金額が入ってきたとしたら、どんなことになるでしょうか。プロジェクト対象者だけでなく、プロジェクトで働くスタッフたちにも、外国への依存心を持たせてしまう危険性があります。これまで扱ったことのない金額であるがゆえに、スタッフたちがそのお金を適切に扱えないケースも出てくるかもしれません。これでは、せっかく同朋のために何かしようと動きだしたエチオピアの人々の思いが台無しになってしまうことにもなりかねません。同じ地球に住む者として、今後も協力を続けていくことは必要です。しかし、過去には妥当であった人々へのアプローチの方法も、時代の流れの中で、これまでと違う方法に変えていくことも必要かもしれません。

外国人として、エチオピアの団体とどのように協力していくのか、「提供する側」と「受ける側」の関係ではなく、地球家族の一員として、どのような関係を築いていくことが最善であるのかを考えさせられます。

（「支援者への手紙」より／2008年6月）



エチオピア人が運営する、貧困家庭の子どもたちのための幼稚園の前で（左）高橋スタッフ



ORIENTATION TRAINING オリエンテーション・トレーニング



海外で奉仕を目指す人のために

「活動地で奉仕がしたい」「飢餓問題について学びたい」
そんな方のための年2回のトレーニングです。

【第25回】

2007年8月6日(月)～11日(土)

グレース宣教会・紀勢会堂(三重県)

参加者：8名

【第26回】

2008年3月24日(月)～29日(土)

東京キリスト教学園(千葉県)

参加者：15名



海外ワークキャンプ 見て、聞いて、体験して



フィリピン・ワークキャンプ

日程：8月2日(土)～14日(火)

参加者：15名

場所：セントキテリア(ビッグバナナ)地域

内容：バスケットコート建設のお手伝い



バングラデシュ・スタディキャンプ

日程：8月1日(土)～14日(火)

参加者：12名

場所：ダッカ、マイメンシン

内容：活動地訪問と世界里親会の子どもたちとの交流



ボリビア・ワークキャンプ

日程：8月16日(土)～29日(水)

参加者：8名

場所：コチャバンバ州カピノタ県

内容：学校のトイレの建設のお手伝い



ウガンダ・ワークキャンプ

日程：8月16日(土)～30日(火)

参加者：12名

場所：ムコノ地域

内容：職業訓練センター建設のお手伝い



国内活動

日本の私たちも変わる！始める！

10月16日は何の日？

～広がる「世界食料デー」の輪～

10月16日は国連が制定した「世界食料デー」です。

1981年から始まったものですが、日本国際飢餓対策機構でもその翌年から、この日をきっかけに、少しでも世界の飢餓の現状を知っていただくことを願い、講演会などを中心に、毎年、啓発活動に取り組んできました。最初は1ヶ所で始まった世界食料デー大会ですが、26年を経て、昨年は15県28ヶ所で開催されました。大会以外の協力も含め、支援金が前年よりも約300万円増加して、2,297万5,317円が寄せられました。これらは、ウガンダの拉致された子どもたちの支援やバングラデシュの小児専門病院などのために用いさせていただきました。

子どもたちと「水」について考える(奈良大会)



「世界食料デー」を地域に根ざした取り組みにしていこうと、地元のコリアスタループや学校の吹奏楽チームなどの参加をいただいたり、ボランティアの方々の応援もいただきながら、各大会での取り組みが進められています。



世界食料デー沖縄大会



寄せられた募金に感謝！(東大阪大会)

現地報告を行う浜名マリヤ
(元カンボジア駐在)、高橋
ゆかり(エチオピア駐在)

World Food Day

全国各地に足を運んで

～講演会・巡回活動～

世界の飢餓や貧困と闘う方々の現状や自立への取り組み、また日本の私たちの生活との関係について、全国各地の皆様のもとに足を運び、共に考えました

小学校講演の様子

日本国際飢餓対策機構では、現地での働きと日本の私たちの生活を結びつけて考えていただくために、日本国内での啓発活動に力を入れています。そのために講演会活動を中心とするスタッフが年間を通して巡回活動をさせていただくと共に、現地に派遣されたスタッフが帰国した折には報告会を各地で行うなど、世界の飢餓の現状や私たちと



の関わりを、実際の現場の写真や視聴覚教材を使いながらお伝えすることができました。昨年は、536回（そのうち学校講演126回）の集会を行わせていただき、延べ出席人数は44,212人でした。

●歌を通して世界をつなぐ

～親善大使の働き～

当機構・親善大使として、ゴスペル・シンガーの上原令子さん（2004年7月～）と森祐理さん（2006年4月～）の二人が、歌を通して飢餓に苦しむ方々の現状を伝える働きを担ってくださっています。



上原令子さん



森祐理さん

生活の中での国際協力

●ラビング募金箱・地球型募金箱

～1円、5円、10円が集まると…～

私たちは日頃、1円、5円などの小銭をどのように扱っているでしょうか。日本では小銭と呼ばれるものも、今日十分に食べることでできない方々にとって、いのちにかかわるお金になります。ぜひ、ラビング募金箱（家庭用）、地球型募金箱（店舗、団体用）などをご利用くださり、小銭を貯めてお送りください。集まった募金は飢餓と貧困に苦しむ方々のために用いさせていただきます。



地球型募金箱（中央）、ラビング募金箱・大小（左右）

●書き損じハガキ

皆様からお送りいただいた書き損じはがきが、この一年間で12,577枚（496,999円）になりました。これらは、海外駐在スタッフ派遣を支える働き（スタッフへの毎月の郵便物、スタッフ支援会への連絡、これら事務作業に携わる日本事務所経費など）のために用いさせていただきました。感謝をいたします。

●ウェブサイト

2008年7月に大幅リニューアルを実施。飢餓問題や国際協力についての情報提供や入会申し込み等など、様々なお問い合わせに迅速に対応していけるものにしたいと願っています！ぜひ、ウェブサイトをご覧ください！



★ウェブサイト・アドレス <http://www.jifh.org/>

★Eメール・アドレス general@jifh.org

視聴覚教材をご利用下さい

視聴覚教材(ビデオ、パネル、児童画)の貸し出しは無料ですが、往復の送料のみご負担いただいております。貸し出し期間はビデオは2週間、パネル・児童画についてはご相談下さい。

◆ ビデオ (貸出用)



★飢餓問題について知りたい方へ

- ①隣り人の叫び (16分 / 小学校高学年以上 / 1986年 / 文部省選定)
- ②南のおともだちのために (16分 / 幼稚園以上 / 1990年 / 文部省選定)
- ③世界の子どもたち (7分 / 幼稚園以上 / 2003年)

★各国での自立開発協力活動について知りたい方へ

- ④共に生きる (18分 / 小学校高学年以上 / 1988年 / 文部省選定)
- ⑤極貧のアンデスから (20分 / 小学校高学年以上 / 1990年 / 文部省選定)
- ⑥翔べアンデスの子よ (19分 / 小学校高学年以上 / 1990年 / 文部省選定)
- ⑦エチオピアの人びとと共に (17分 / 小学校高学年以上 / 1994年 / 文部省選定)
- ⑧山岳ラオと共に (19分 / 小学校高学年以上 / 2002年 / 文部科学省選定)

★教育支援活動(世界里親会)について知りたい方へ

- ⑨明日輝くために (17分 / 小学校高学年以上 / 1988年 / 文部省選定)
- ⑩愛が実を結ぶ時 (18分 / 小学校高学年以上 / 1999年 / 文部省選定)

★日本国際飢餓対策機構の動きの全体について知りたい方へ

- ⑪私たちの働き (21分 / 小学校高学年以上 / 2001年)

◆ DVD (頒布用)

★世界の飢餓の現状と私たちについて知りたい方へ

「世界の飢餓の現状と私たち」1,000円で頒布

*上記①③⑦を収録

★教育支援活動(世界里親会)について知りたい方へ

「愛が実を結ぶ時」1,000円で頒布

*上記⑥⑨⑩を収録

★2008年秋にDVD 2種、頒布予定

- ・平和への道〜いやしと和解を通して(ルワンダ)
- ・拉致された少女たち〜いやしと自立が開く未来(ウガンダ)

◆ パネル (貸出用)

「飢餓について」「世界の食料問題について」「世界の水問題について」など、わかりやすく表した文字&写真パネルなどがあります。

◆ 国際児童画 (貸出用)

バングラデシュ、ウガンダ、ペルー、ボリビアなど10数ヶ国で教育支援を受けている子どもたちが、毎年のテーマに沿って描いたものです。2007年は「私の大切なもの」、2008年は「もし私が…だったら」です。その他「遊び」「学校」「仕事」「食べ物と水」「希望」などが揃っています。



◆ その他/カレンダー、書籍

●国際協力カレンダー「地球家族」

世界6ヶ国の民間援助団体が共同制作しているものです。2008年版のテーマは「働く」。2009年版は「彩り」。インド、中国、ルワンダ、ペルー、イエメン、アフガニスタン、マリ、モンゴルなどに生きる人々の写真です。

26×36cm フルカラー 一部1,000円で頒布



●絵本「ゴンドールのやさしい光」(日英対訳)

1985年のエチオピア大飢饉の際、スタッフが出会ったおじさんと、小さな女の子の交流を絵本にしたものです。本当の愛に気付かされます。

発行：自由国民社

絵：葉 祥明

文：みなみななみ

一冊1,600円で頒布

(*韓国語版、中国語版も出版。
またスペイン語版(DVD)もあります。)



●まんがで学ぶ開発教育「世界と地球の困った現実」

主人公のみなみくんと一緒に、飢餓・貧困・環境破壊などの問題を学びます。

発行：明石書店

まんが：みなみななみ

編：日本国際飢餓対策機構

一冊1,000円で頒布



支援活動一覧

アジア

バングラデシュ	19,148,630
世界里親会（ダッカ、マイメンシン）	9,568,386
グループ活動プログラム（ダッカ近郊ドゥムニ地区、ゴノクトリ地区） WFD	3,675,360
シシュ小児専門病院、小児治療センター（ダッカ） WFD	2,021,800
シシュ小児専門病院へ粉ミルク支援（ダッカ）	1,824,269
海外駐在スタッフ／島 幸晴 支援	2,058,815
カンボジア	10,533,527
世界里親会（オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡）	4,183,336
地域開発プログラム～農業・保健衛生・貯蓄～（オドー・メンチェイ州アンロン・ベン郡）	1,386,942
指導者育成プログラム（国内8州）	92,608
海外駐在スタッフ／吉田真記 支援	2,095,405
海外駐在スタッフ／斉藤 満 支援	2,775,236
フィリピン	16,347,660
世界里親会（マニラ近郊地区／バリバラン、セントキテリア）	7,257,056
里子の奨学金	192,048
コミュニティ整備（セントキテリア）	245,980
子ども地域開発プログラム 準備資金（ミンドロ島）	4,533,922
養豚プロジェクト（ブラカン地区）	222,000
移動式学習センター（ブラカン地区）	670,959
海外駐在スタッフ／酒井 保・慶子夫妻 支援	3,225,695
中国	10,827,255
地域開発プログラム（雲南省北部ディーチン・チベット族自治州） WFD	2,300,000
竹工芸指導者育成プログラム（雲南省昆明市）	2,183,202
海外駐在スタッフ／中上幸三・敏子夫妻 支援	3,184,255
海外駐在スタッフ／星野公寛・尚子夫妻 支援	3,159,798
インド	2,513,972
社会にインパクト！アートワークショップ（デリー）	249,625
アシシ障がい児支援スクール（デリー） WFD	1,251,375
女の赤ちゃんを守れキャンペーン（デリー）	1,012,972

アジア合計 59,371,044

アフリカ

ウガンダ	24,209,967
世界里親会（ブンタバ、ナマスンビ、キョガ、ミソンバ）	12,908,390
世界里親会関連／職業訓練センター建設（教師寮、技術室、芸術室）（キョガ） WFD	5,598,999
拉致された子どもたち支援（キトゥグム） WFD	2,886,050
WATOTO プロジェクト	700,000
海外駐在スタッフ／朝夷佳光 支援	2,116,528
エチオピア	5,194,279
女性の能力開発プロジェクト（アジスアベバ） WFD	2,907,785
海外駐在スタッフ／高橋ゆかり 支援	2,286,494
ルワンダ	3,443,233
トラウマに苦しむ方々への支援（カモニ郡） WFD	1,110,000
海外駐在スタッフ／竹内 緑 支援	2,333,233
モザンビーク	674,528
世界里親会（マロメウ地区ヴィラ）	674,528
ブルンジ	26,772,097
医薬品（医療用具類）寄贈およびその輸送費 WFD	26,772,097
ジンバブエ	11,806,900
食料（缶入りパン）寄贈およびその輸送費（ハラレ）	11,806,900

アフリカ合計 72,101,004

支援活動一覧

中南米

ペルー	6,025,031
世界里親会（ビジャ・ドス・デ・エネーロ、ロス・プロセレス）	2,817,187
保健衛生プロモーター育成プログラム（プカルバ） WFD	461,980
指導者育成プログラム（リマ、プカルバ）	265,718
海外駐在スタッフ／勢井美世 支援	2,480,146
ボリビア	10,388,143
世界里親会／チャヤ	4,126,632
寄宿学校支援／学校給食・農業教育（チャヤ）	1,394,234
コミュニティ整備（チャヤ）	444,486
海外駐在スタッフ／小西小百合 支援	2,231,760
海外駐在スタッフ／河合朝子 支援	2,191,031
ホンジュラス	564,239,871
医薬品（医療用具類）寄贈およびその輸送費	564,239,871

中南米総計 580,653,045

海外緊急援助

ペルー南部地震・被災者緊急支援（ペルー／チンチャなど）	1,250,000
サイクロン「シドル」被害者緊急支援（バングラデシュ／ボルグナ県など）	1,200,000
サイクロン「ナルギス」緊急支援（ミャンマー／ラブッタなど）	1,064,300
四川省大地震被災者緊急支援（中国／四川省）	2,596,474
洪水緊急支援（モザンビーク／マロメウなど）	625,000
緊急援助用食糧寄贈（フィリピン／ミンドロ島サンアンドレアス地区）	16,739,900

緊急援助合計 23,475,674

国内援助

新潟中越沖地震・緊急援助および復興支援	1,657,652
---------------------	-----------

国内援助合計 1,657,652

その他

国際飢餓対策機構サービスセンターの動きのため	8,470,460
プログラム管理費	4,869,146
「ハンス・オブ・ラブ・アメリカ」設立資金	358,359
国際飢餓対策機構連合 設立資金	862,396
ビジョン・オブ・コミュニティ・フェローシップ 設立資金	2,133,539
開発途上国全般の開発援助として	23,551,812
指導者育成プログラム	1,664,875
海外プロジェクト担当／柳沢美登里 支援	3,462,983
海外プロジェクト担当／森田哲也 支援	2,110,885
海外駐在スタッフ／青山亜紀子（現ウガンダ駐在）支援	2,081,110
元カンボジア駐在スタッフ 木村力央・志保夫妻 支援	3,624,073
元カンボジア駐在スタッフ 浜名基弘・マリヤ夫妻 支援	979,692
陣内 俊スタッフ（キングダム・コンソーシアム）のために	769,219

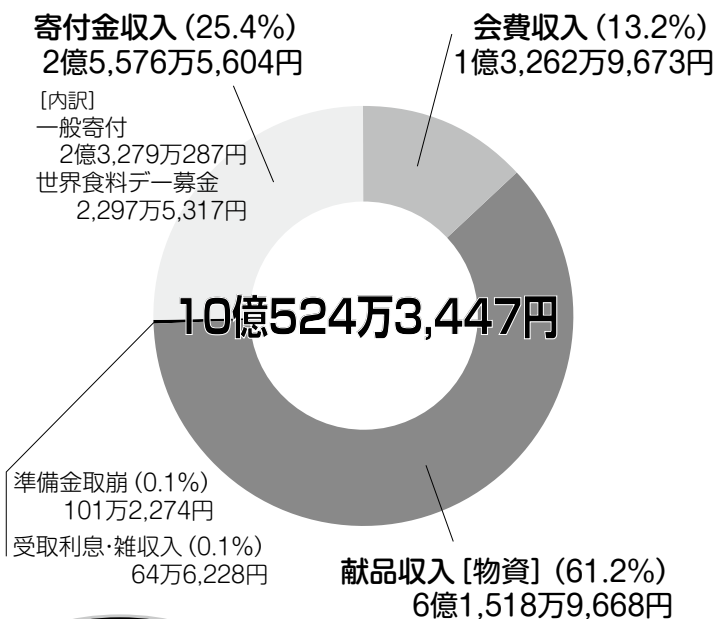
その他合計 54,938,549

支援合計 792,196,968

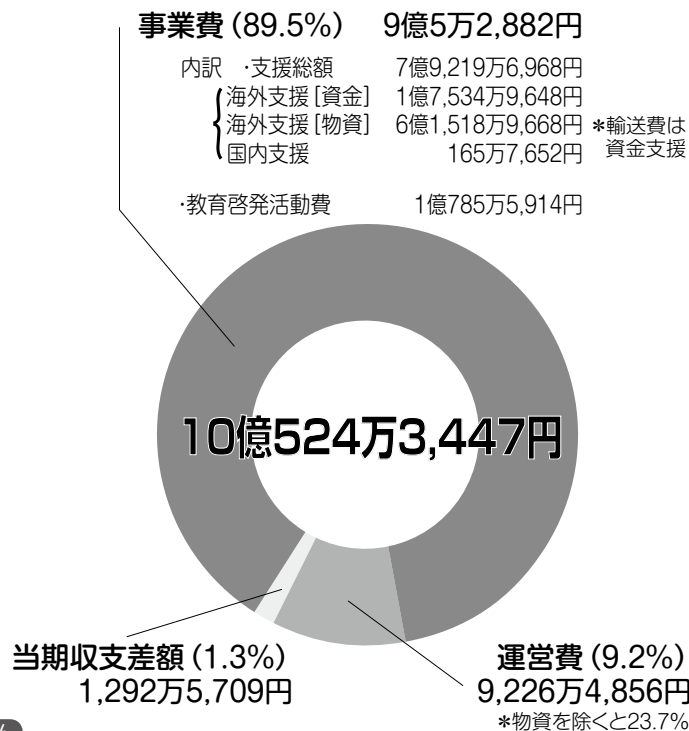
＊数字の単位は全て円です。
 ＊現地駐在スタッフの支援金には、年金・海外旅行傷害保険などを含んでいます。
 ＊ **WFD** の印のついたプログラムの一部には、2007 年度の世界食料デー募金が充てられました。

第26期 2007年7月1日～2008年6月30日

収入の部



支出の部



監査報告書

日本国際飢餓対策機構
理事長 堀内 顕 殿

私たち、監事 舟橋 弘 および 朝倉 章の両名は、
日本国際飢餓対策機構の2007年7月1日から2008年6月30日までの
第26期会計年度における財産増減計算書および貸借対照表を
監査いたしました結果、適法かつ正確であることを認めます。

2008年8月1日

監事 朝倉 章

監事 舟橋 弘

【支援者数内訳】

※ 2007年7月～2008年6月の募金受付分
※ 各項目において重複支援者あり

総支援者数 9,274 名
(内：個人 6,209 件、団体 3,065 件)

- ◆ JIFH 会員 1,552 名
(内：個人 1,458 件、団体 94 件)
- ◆ 世界里親会会員 1,776 名
(内：個人 1,538 件、団体 238 件)
- 賛助会員 658 名
(内：個人 572 件、団体 86 件)
(里子数：2,312 名)
- ◆ 各海外スタッフ支援として 1,196 名
(内：個人 954 件、団体 242 件)
- IVS 会員として 250 名
(内：個人 177 件、団体 73 件)
- ◆ 一般支援者 6,855 名
(内：個人 3,424 件、団体 3,431 件)



善い隣人になって共に生きよう

キングダム・コンソーシアム

The Kingdom Consortium

新部門が誕生しました！

日本国際飢餓対策機構は、設立以来、主として海外における緊急援助と自立開発協力を通して、人々の自立を促す働きを進めてまいりましたが、足元の日本社会における家庭や人との関係、自然界との関係などの崩壊の現実には十分に伝えてきたとは言えないものがあります。

このことを踏まえ総合的な見地から、「人々が善い隣人になってお互いに仕え合う社会（キングダム）」が日本にも世界にも実現されることをビジョンに掲げ、このたび日本国際飢餓対策機構内に、神田英輔・特命大使を責任者として「キングダム・コンソーシアム」という新しい部門を立ち上げました。

その目標とするところは、「善い隣人になって共に生きたいと願う者」たちが、自分に与えられている潜在的な能力に目覚め、社会に変革をもたらす使者として、社会の至るところに派遣され、破れた関係の修復に従事していくことです。

具体的な活動としては、このような人々を育てること、また、家庭単位、地域単位、ビジネス、芸術、教育、政治、医療、メディア、法曹の領域などの職域単位でネットワーク（コンソーシアム）を作って社会に変革をもたらすために仕えること、また世界的なネットワーク（Disciple Nations Alliance）との協力関係のなかで、先進国・開発途上国を問わず、「からだの飢餓」と「こころの飢餓」に応えることです。

2007年7月～12月

7月	新潟中越沖地震・被災者支援活動
8月	第25回オリエンテーション・トレーニング開催（三重県）
	ワークキャンプ実施（フィリピン、バングラデシュ、ボリビア、ウガンダ）
	「市民大交流フェスタ」参加（名古屋）
9月	伊藤えみ子、向頭要一、藤谷誠が国内スタッフ（大阪）として、申玉淑が協力スタッフとして働きを開始
	第81回 定例理事会
10月	「世界食料デー大会」9月～11月を中心に全国28ヶ所で開催。現地報告は、高橋ゆかり（エチオピア）、浜名マリヤ（元カンボジア）など
	ペルー・ボリビア視察
	グローバルフェスタ JAPAN 参加（東京）
11月	小島亮子、吉田愛、国内スタッフ（愛知）として働きを開始
	「国際飢餓対策機構連合」会議（韓国）
12月	フィリピン・ミンドロ島視察（柳沢美登里総主事）
	河合朝子スタッフ（農業アドバイザー／世界里親会スタッフ）、ボリビアから帰国
12月	クリスマス募金「海外駐在スタッフを応援してください」アピール
	星野公寛・尚子夫妻（雲南省 農村地域開発プロモーター）、中国より帰国

2008年1月～6月

1月	柳沢美登里総主事、インド・アフリカ訪問
2月	新潟中越沖地震／森祐理 親善大使「希望の翼コンサート」
	ルワンダ・ウガンダDVD撮影ツアー（田村総主事、神田特命大使）
	齊藤満スタッフ（世界里親会アドバイザー）、カンボジアへ派遣
3月	ワンワールド・フェスティバル参加（大阪）
	公開講座「いっぺんやってみよう～コミュニティー開発」（名古屋）
	春の特別支援「女性の能力開発プロジェクト（エチオピア）」アピール
4月	世界里親会 フィリピン里子訪問ツアー
	第26回オリエンテーション・トレーニング開催（千葉県）
	勢井美世スタッフ（世界里親会コミュニティープロモーター）、ペルーから帰国
5月	酒井保・慶子夫妻（ミンドロ島プロジェクトマネジャー）、フィリピンへ派遣
	前川一武、研修スタッフとして働きを開始。
	竹工芸指導育成プログラム 中国雲南省昆明市宣良県にて実施（八木澤 正・洋志）
6月	陣内俊、キングダム・コンソーシアムのスタッフとして働きを開始
	第82回 定期理事会
	「国際飢餓対策機構連合」会議（フィリピン）
6月	高橋献一スタッフ、事務部副総主事に就任
	山本和弘スタッフ、世界里親会の副総主事に就任
	中国四川省大地震被災者支援に清家総主事、申スタッフを派遣
6月	バングラデシュ、シシュ小児専門病院・小児治療センターへの支援終了
	森田哲也スタッフ、海外プログラム・国際協力隊スタッフとして働きを開始
6月	第83回 定期理事会

その他、機関誌「飢餓対策ニュース」12回発行（内、年次報告1回含む）

日本国際飢餓対策機構とは

【沿革】

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年にひとりの日本人がインドシナ難民救援から帰国したのを契機に始まりました。以来、アジア、アフリカ、中南米の開発途上にある国々で、現地にあるパートナーを尊重し、成長しあう協力関係を築きながら、人々のこころとからだの飢餓にえています。

日本国際飢餓対策機構の目指すものは…

- 人々が、生活の基本的必要に満たされ、自立する。
- 自分の可能性を信じ、希望をもって生活し、隣人を愛する人が増えていく。
- 「分かち合い、助け合う」共生社会が実現される。

【参加の方法】

同じ地球家族のひとりとして、始めていただけることがたくさんあります。

- ◆ シンプルライフを目指す！
- ◆ 世界の飢餓の現状を知る！
- ◆ 具体的に活動を支援する！
- ◆ 会員となって、この働き全般を継続的に支える！

□ 会員制度および支援について

全活動は、支援者の皆様お一人お一人の定期的な会費、随時の募金、募金箱による協力などによって支えられています。

● JIFH 会員

日本を含める先進工業国の飽食の暮らしぶりを見直し、何かを節約した中から支援をしていただくことで、「共に生きる」運動を広げていきます。会費は、JIFH の活動全般のために用いさせていただきます。毎月一口 500 円から。

● 世界里親会・会員

開発途上国の子どもたちのこころとからだの健やかな成長のために、教育支援のみならず、子どもたちの家族やコミュニティも支援します。

里子一人の支援につき月額 4,000 円。

● 里親賛助会員

里子は指定されませんが、世界里親会の活動全般を支援していただきます。毎月一口 500 円から。

● 海外駐在スタッフ支援

各国で活動する海外駐在スタッフを支援していただきます。毎月自由額から。

● 海外ボランティアスタッフを支える会（IVS）

スタッフを特定せず、海外スタッフ派遣の活動全般をご支援いただきます。毎月一口 1,000 円から。

● 一般寄付について

「今回一度だけ」「できる時に自由額で」「特に募金の指定先はない」そのような場合の募金です。その時点で一番必要のある活動のために用いさせていただきます。

● 指定寄付について

募金使途先（国、プロジェクト）を指定していただけます。

※機関紙について

会員の方々へは、当機構機関紙「飢餓対策ニュース」をお送りいたします。機関紙の購読料は会費に含まれております。お申し出いただければ、賛同者の方々へもお送りいたします。

■ 顧問

泉田 昭、岡村又雄、金子純雄、野武興一、山森鉄直

■ 理事

堀内 顕（理事長）、墨 鉦平（名誉理事）、岸 好美（副理事長／運営担当）
倉沢正則（副理事長／経理担当）、拝高真紀夫、木村雄二、崔 信義
赤江弘之、岩橋竜介、有江 健（常務理事）

■ 評議員

工藤弘雄、田中隆裕、笠川徹三、麦野 賦、千代崎聖子、比嘉幹房
田口博之、水野晶子（～2007年10月）
鍛冶 勉、栗原延元、大内秀子、福井文彦、塚田泰司、川口昌英
古波津保秀、佐々木保雄、林 茂宏、藤崎秀雄、野口富久、加藤光行
大村裕康、小林啓一、リディア・ハンキンス、佐多洋明、池原信徳
（2008年4月～2010年3月）

■ 監事

舟橋 弘（公認会計士）、朝倉 章（顧問税理士）

■ 海外駐在スタッフ（2008年7月末現在）

【カンボジア】 吉田真紀、斉藤 満

【中華人民共和国】 中上幸三・敏子

【フィリピン】 酒井 保・慶子

【バングラデシュ】 島 幸晴

【エチオピア】 高橋ゆかり

【ルワンダ】 竹内 緑

【ウガンダ】 朝夷佳光 青山亜紀子

【ボリビア】 小西小百合

★特別講師 八木澤 正・洋志

（竹工藝技術者として毎年、中華人民共和国へ派遣）

■ 職員（2008年7月末日現在）

【大阪事務所】

事務部：有江 健（事務部・総主事）、高橋献一（副総主事）、西川真一
鍛冶嘉美、富浪貴志、藤谷 誠、中井佐起子

里親部：有江 健（里親部・総主事）、山本和弘（副総主事）、
仲島涼子、長久愛子 ※浜名マリヤ（～2008年8月末）

国際協力隊：松島育子、河合朝子、勢井美世

開発・教育部：西本玲子（主任）、鶴浦弘敏、伊藤えみ子、向頭要一、西川和子
※研修スタッフ：前川一武
※協力スタッフ：申 玉漱（姜 恵媛 2008年8月～）

【東京事務所】※開発・教育部

柳沢美登里（海外プロジェクト担当および東京事務所管理・総主事）
辻本清臣（特別顧問）、須山弘子（主任および東京事務所管理補佐）
石田敏隆、奥村いずみ、森田哲也、半田智英子
神田英輔（特命大使／キングダム・コンソーシアム）
陣内 俊（キングダム・コンソーシアム）

【愛知事務所】※国際協力隊

清家弘久（国際協力隊・総主事）、小島亮子、吉田 愛

【広島事務所】※開発・教育部

田村治郎（開発・教育部 総主事）、千代崎満子

【沖縄事務所】※開発・教育部

太田留美子